

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390300509		
法人名	医療法人 愛生会		
事業所名	第2グループホーム愛生		
所在地	熊本県入吉市南泉田町115		
自己評価作成日	平成24年 1月14日	評価結果市町村受理日	平成24年 3月 5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アクシス		
所在地	熊本県熊本市八幡9-6-51		
訪問調査日	平成24年 1月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症ケア 医療との連携 学習療法 季節の行事

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

この事業所では、現在管理者の発案により「笑顔プロジェクト」が全職員一丸となって進行中である。笑顔で利用者の目を見て話し、誠意を持って接することで利用者の表情や言葉に明らかな変化が現れて来ている。特に表情が硬く、無口だった利用者などには顕著な結果である。利用者により結果が出ることで、職員にも自覚が生まれ、サービスの質の向上へとつながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員皆で作った理念を施設内に掲示し、朝礼時に唱和している。昨年末から行った「笑顔プロジェクト」はその実践の一つであり、大きな成果を得ている。	「笑顔、自己決定、地域交流、チームケア」の4項目を理念として掲げ、ホールの、目立つ場所に掲示している。朝礼時に唱和することにより、意識づけを行っている。また昨年からは、もう一段進めて「笑顔プロジェクト」を実施し、成果を上げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りや文化祭など、行事を行って、地域の人にも施設にきていただく機会を設けている。ボランティアスクール体験などの受け入れも行っている。	地域とのつながりを築くために、夏祭りや文化祭など機会を設け、地域住民との交流を行っている。また、ボランティアスクール体験の受け入れや事業所の前の道路が通学コースになっていることもあり、利用者と小学生の交流も模索している。	地域の清掃活動やリサイクル活動など、より身近なところから地域に溶け込む努力をして欲しいと思います。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者はボランティアスクールや、市役所職員研修、山江村の住民向けなどの認知症サポーター養成講座などでキャラバンメイトとして講師を務めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では利用者やサービスの実施状況を報告し、地域での行事ごとなどの情報を得て、外出の機会としている。	会議は2カ月に1回行われている。出席メンバーは、市役所の担当者、社協職員、民生委員、利用者の家族等で構成されている。そこでは、利用者の状況、サービスの実施状況を報告したり、地域の情報を得る機会としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認知症サポーター養成講座は、市役所と協同して行っている。不定期ではあるが利用状況を連絡している。	運営推進会議でも、市の担当者との連携が図られており、認知症サポーター養成講座は市役所との共同で行われている。市と事業所は、良好な関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	可能なかぎり利用者の動きに合わせた介護に努めているが、早朝・夜間は玄関の施錠している。	事業所では、身体拘束をしないケアを実践するために、月に1回内部研修を行っている。また、ふれあいケア・認知症ケア最前線という専門誌を全職員が目を通し、スキルアップに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての施設内研修を行った。専門誌を定期購入し、いつでも閲覧できる状況にある。		

事業所名:第2グループホーム愛生

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や地域福祉権利擁護事業の研修を行った。専門誌を購入し、いつでも閲覧できる状況にある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては時間を掛けて納得していただいているものと思っているが、十分な説明とはどこまでをいうのか、よく分らない		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族が参加してもらっているが、意見・要望といったものがとくに出不い。	現在のところ利用者や家族などの意見・要望は、取り立てて出ていないと言うことである。	意見や要望から気付かされることもあると思います。意見箱や満足度アンケートなど、出しやすい環境作りこれからも取り組んで欲しいと思います。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を実施。管理者はときおり、個別に面接して意見を聞いている。	月に1回職員会議を行い、意見や提案を聞く機会を設けている。また個別面談も取り入れながら取り組んでいる。いいと思うことは実行してみるということが管理者の考えである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	クラブ活動への支援、資格手当の支給、4週8休の徹底、忘年会・花見・慰労会等を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	掲示板に研修の案内を随時アップしている。また、介護関連の専門誌を2種類定期購入しており、いつでも閲覧できる。必要な研修の費用を負担している。事業所内で毎月研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に参加し、交流をおこなっている。昨年は当施設が、ケアプランの研修を担当した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時に入居者の状態をよく知るためにアセスメントをとり、本人の不安がなくなり安心されるようにコミュニケーションを図っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの希望や要望等の話を聞き、その内容に近づけるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談があったときは、他の関連施設の職員と協同行う会議にて、他のサービスの利用をふくめた検討を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者を尊敬し、本人の意思を尊重しながら日常生活ができるように努力している。洗濯ものたたみや掃除、調理を一緒に行うように努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族がいつでも面会できるように環境を整え、遠方のご家族には毎月のお便りや電話の取り次ぎを行い本人との絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様の故郷へ出向き昔のことを思い出していただくようにしている。近所の祭りに参加している。	弟子がよく訪ねて来られる利用者がおられたり、今でも以前の利用者のご家族が尋ねて来られるなど、利用者と馴染みの方との関係継続に力を入れている。	
21		利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の仲を大事にし、同じテーブルでの作業や食事の配置を工夫し、トラブルの軽減を図っている。		

事業所名:第2グループホーム愛生

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	有料老人ホームを経て他のグループホームに入居された方がいるが、時折状況をうかがっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思を尊重し、できる限り本人の希望に沿うような生活を支援している。個別ケアも話し合いをして行っている。	よりの確な思いや意向を把握する為に、老健協のR4システムを採用し、理学療法士や医師などの専門職の意見も参考にしている。職員は、笑顔で毎日問いかけることにより、答えが見えてくると話している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネやご家族、他のサービス担当者からの情報をもらい、これまでの生活内容を把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録により、一人一人の心身状態や生活動作、心理面を把握し申し送りやホーム内のノートに記入しスタッフ全員で把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族に昔の話、以前の状態を聞きながらケアに取り入れている。ケース会議にて訪問看護と話し合いを行っている。月に一度グループホーム職員との話し合いを行っている。	ケース会議を月に2回、第2・第4金曜日に行っている。会議は訪問看護師も交えて行われており、問題点の把握や、その対応、アドバイス、また受診の進め等、現状に即したものになるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別記録をとっている。職員間で情報を共有できるように朝礼時に申し送りの時間を設けている。昨年末から「笑顔プロジェクト」と銘打ち、個別ケアを実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できる限り本人・家族の状況に合わせ又その時その時の問題点を相対的に見るようにしている。ノンアルコールビールの対応など。		

事業所名:第2グループホーム愛生

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の夏祭りや産業祭、おくんち祭、イルミネーションを見に行ったりと、施設内にとどまらず、地域に出かけていき、精神的な面で気分転換を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の了解を得て、同じ法人内の医療機関をかかりつけ医としている。また必要に応じて歯科受診など、職員が同行している。	現在、利用者全員が同法人の医療機関をかかりつけ医としている。受診の際の送迎や付き添いは職員が行っている。また、緊急の場合や夜間の対応も、訪問看護師の指導のもと、適切に行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常での気づきや変化を記録に残し、週1回の訪問看護師の来設時に報告し指示を仰いでいる。気になるときは外来もふくめ随時連絡・相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供書を届けており、病院のソーシャルワーカーと随時相談している。また、法人内の入・退院調整会議に参加して関係づくりに取り組んでいる。入院時は随時お見舞いに行つて状況を把握するように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在本人家族との話し合いは行っていない	重度化に対する対応としては、関連機関との連携を図ることで対応を考えている。又、看取りを行なった実績はなく、今後も予定していない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の救急講習をほぼ全員の職員が受講するなど、研修に取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し、火災時のマニュアルがあるが、地域との協力体制は築けていない。	避難訓練は年2回、同法人の他事業所と合同で行っている。消火器使用の実演や避難方法・経路の確認、緊急連絡網のチェック等を行っている。	今後、食糧や飲用水等の備蓄についても取り組んで欲しいと思います。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の皆さんの人格を把握し、ほこりやプライバシーを傷つけないように、その人その人に合った声かけをおこなうように努めている	利用者の誇りやプライバシーを損ねることがないよう、年1回は接遇や敬語の使い方について研修会を行っている。また、職員は利用者の目を見て話すこと、誠意を持って対応することをモットーに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の言葉に耳を傾け、本人の思いや希望を聞きいれ意思を尊重し可能な限り自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースになるだけ合わせようと努力しているが、十分でない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問で来られる美容師によるカットやホーム内で職員にて髪染めも行いお洒落ができるように支援している。また、御家族が美容院へ連れて行かれることもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者一人一人の好みのおかずは出せていないが職員と一緒に昼食や夕食づくり、おかずのつぎ分けは行ってもらっている。	その日の体調や利用者の力にもよるが、できるだけ食事が楽しみなものになるよう、調理、おかずのつぎ分け、お盆拭き、食器洗いと出来る事は一緒にやるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量をチェック表に記入しパソコンへも記録している。また利用者一人一人に合わせ、食事の提供方法について工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声かけを行い、口腔ケアを実施している。拒否や指示が必要な方へも声かけの工夫や歯ブラシを手渡すようにしている。		

事業所名:第2グループホーム愛生

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人のトイレチェックを行い時間・排泄パターンを観察し、できるだけトイレを一人でできるように声かけ、おむつの検討を行っている	排泄チェック表に記録し、一人一人の排泄パターンや特徴をつかみ、声掛けを行い、トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	訪問看護にアドバイスをもらいながら便秘の対応を行っている。個人の排便量・水分量をチェックしながら下剤の検討を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴状態を把握するために月水金・火木土と入浴メンバーを決めているが体調や希望に合わせて入浴できるシステムにはなっている。本人に声かけし希望を聞くようにしちえる。檜風呂の温泉を利用した個浴を行っている。	檜風呂に天然の温泉が引かれている。その日の体調や希望に沿って、支援している。回数は週3回が基本となる。時間帯は午前が10:00～11:30、午後が2:00～4:00となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望・体調に合わせて昼間であっても寝たい時に寝て頂いている。夜間寝付きが悪い方は眠剤の検討を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	本人の症状の変化はパソコンでいつでも見られるようになってきている。くすりの処方箋はファイルに保管し、職員が変更時にみるようにしている。訪問看護からの助言をいただき夜勤者が次の日の服薬をセットしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔料理をされていた方は積極的に料理の手伝いをしていただいている。料理が難しい方であっても皿への次ぎ分けをいただくなどしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	業務的にその日に外出支援は難しい時があるが、できる日に市内・町へ外出する。計画を立てている。町のイベント・行事などにはできるだけ参加している。家族さんが出外につれていかれることもある。	町のイベントや行事などには、できるだけ参加するようにしている。産業祭もその一つである。また青井阿蘇神社のおくんち祭りでは、行列が事業所の近くを行進するので、外出の機会として捉え支援している。	日常的な外出については、希望が少ないようであるが、すぐ近くに人吉城跡等もあり、恵まれた環境にあるので、家族にも協力を求め、外出支援の輪を広げて欲しいと思います。

事業所名:第2グループホーム愛生

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方は本人様がお金を所持して頂いている。ホームにてお金を管理している人でも受診時などには職員と一緒に支払いを行う。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様の希望やご家族からの電話の取り次ぎはおこなっている。ご家族様へは毎月GH広報として写真付きでお手紙をだしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとにホーム内の模様替えや入居者と一緒に季節のカレンダーの作成を行っている。入り口には活花を飾ったり、玄関には白や灯籠を置いたり、ホール内には熱帯魚の水槽を置いたり、工夫を行っている。	共用空間は淡いグリーンや木目を基調に内装を仕上げており、大変落ち着いた雰囲気となっている。壁面を利用して、利用者と共同製作した季節のカレンダーも飾ってある。また月に2回、華道の先生による生け花も心地よい空間づくりに一役かっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下などにソファを置き、畳のコーナーを2ヶ所作っていつでも語り合えるようなくつろげる環境をつくっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や衣装ケースは、御家族と相談し、持ってこれる範囲で持ち込んで頂いている。ソファ、椅子なども本人と話をしながら居室作りをしている。	ベッド・マットレスは備え付けられている。寝具はリース対応となっている。家具や衣装ケース、その他の調度品は使い慣れたものを活かして、居心地よく過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の認知度に合わせ、トイレに近い居室への移動やトイレや洗面所などの表示をわかりやすい場所に貼っている。		